

私書箱

100-91

東京都中央郵便局
私書箱 916

AA日本ニュースレター No.12

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03-590-5377 ☎ 160 東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル 9F

J S Oの役割について J S Oスタッフ

以前、関東サービス常任委員会から各グループへ出したアンケートの回答の中に、J S Oの利用の仕方が分からないというものがありました。メンバーやグループが「まだ苦しんでいるアルコール中毒者にA Aの回復のメッセージを運ぶ」ため、そのあらゆる便宜を計ることを目的にJ S Oが存在しているのですが、ここで、その主な役割を具体的にお知らせします。それによって、J S Oとグループとがより大きな信頼関係を結び、もっと効率よくJ S Oを利用して戴けたらと願っております。

+ + + + +

・ A Aに関する問い合わせ先

1. 各関係機関、家族、友人、本人、マスコミ関係者からA Aに関する広範囲な問い合わせが、日本国内ばかりでなく、世界中から連日飛び込んできます。各地方からの問い合わせにはできるだけその地元のオフィスやグループにフォローをお願いするようにしています。その時すぐJ S Oから連絡が取れる窓口が各地域、地方に一つでもあるとその対応がとてスムーズにいきます。

2. 全国のグループとの連絡

J S O、グループ、関係機関、委員会等からのグループに対する連絡事項、要請はすべて、J S Oを中継してグループ代議員に通知がいきます。

「代議員の住所。氏名はJ S O内のみで使用し、慎重に取り扱っていますのでご安心下さい。

3. グループ運営上の経験の分かち合い

グループの運営、ミーティングのやり方、各種トラブルの対応等に関する解決策を求めて問い合わせが来ます。そのような場合、J S Oでは、それらの問題に関連した箇所が出ているパンフや出版物を紹介したり、そのような問題解決の経験がある委員やグループを紹介しながら、対応しています。

4. 全国ミーティング日程表

定期的に最新のものを発行しています。ミーティング場の変更があった場合は、すぐJ S Oまでご連絡下さい。「今、出張で〇〇高速を走ってるんだけど、今夜この近くでミーティングがないだろうか？」と問い合わせが来ます。次の朝「行ったけどやっとなかった」と電話が入ることがたまにあります。『まだ苦しんでいるアルコール中毒者』がいつA Aに行



こうという気になるかはだれにも分かりません。ミーティング場がいつでも予定通りに確保され、ドアが開かれていることを希望します。

・全国ミーティング日程表 1部 100円

・全国ミーティング場住所録 1部 250円

(地域別の住所録もあります)

5. 出版物の翻訳、発行、販売、その他

出版局が優先順位を決めて、計画的にA Aの書籍、パンフレット類の翻訳、出版にあたっています。

+ + + + +

現在J S Oは、ノン・アルコールのスタッフ2名とアルバイトのメンバー2名が、多数のメンバーのボランティアに支えられながらローテーションを組み、年中無休体制で業務に取り組んでいます。

(近い将来、メンバーのスタッフが加わります。J S Oの運営責任はオフィス幹事会にあります)。ミーティング場がメンバーの回復の場であるなら、J S Oはサービス活動の中核的な場だと言えるでしょう。是非、メンバーの皆さまの精神的支えと、現実的支え、そして力を分かち合って戴けますようお願いいたします。私たちがもっと皆さまのお役に立つことができますよう、率直なご意見、ご要望をどしどしお寄せ戴きたいと思っております。

J S Oオープン時間:

月~金 9:00am~5:00pm 6:00~7:00pm

土・日・祭 9:00am~5:00pm

「アルコール中毒者に 何ができるか……」

九州地域ラウンドアップ
パブリック・ミーティングより

去る8月19日、長崎雲仙で催された九州地域ラウンドアップの2日目に、3名のパネラーによるパブリックミーティングが開かれました。東京のメンバーの司会で、AAメンバー、家族、関係者の方々、約50名の参加の中で進められ、笑いの中でそれぞれが、ご自分の失敗談も含め、熱心に語られていました。九州地域の特徴とも言えるかもしれない三位一体（本人、家族、関係者）での集りで、延べ181名の参加者のうち、約50名の医療、行政の方が足を運ばれました。

パネラーは、日高剛一氏（元CP）、池田純幸氏（行政）、西脇病院院長らの出席で、テーマは「アルコール中毒者に何ができるか」でした。

池田氏（諫早福祉）

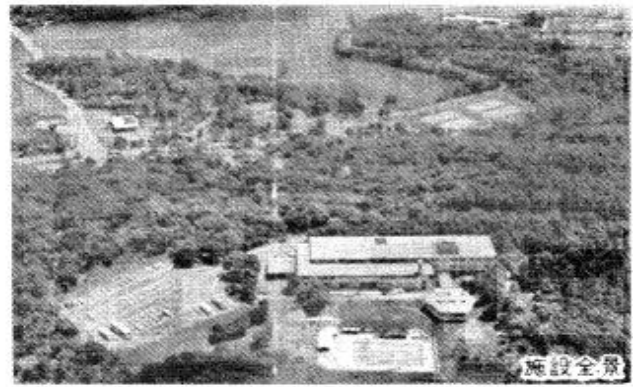
暴力的な依存症者との出会いから、週1回の断酒会に通う内、AAを知るようになりました。長崎のAAミーティングに参加している中で、4～5名の依存症者を同伴することになりました。

AAの明るい雰囲気には驚きながら、AAのプログラムを勉強し始め、そして自分の生き方に利用していききました。何回も何人かを同行してミーティングに足を運ぶ中で、飲んでしまう人の連続でしたが、1人2人と回復していく喜びも知りました。福祉の仕事の関わりで、家族からの断絶にも驚きました。失敗、失望、仕事を離れてボランティアとして我慢して働く。そしてまた、苦しみながらも、血を吐きながらも飲む姿を見て、最初は理解できませんでしたが、ミーティングによって重い病気なのだと思いました。今回、ケースワーカーの仕事を離れて良かったと感じています。生活保護を担当している間に、いつの間にか自分が神に祭り上げられていたのに気がつかされました。これから、友人として交わっていくつもりです。

西脇氏（Dr）

医者として何ができるか、何をすべきかは追いついていないのを追いついていきます。

精神科医としてスタートしましたが、アル中と関わりたくない、関わる事に抵抗を感じる毎日でしたが、私は依存症者と同じ拒否をしているのに気付きました。それから断酒会に参加し、回復していく姿を見ている中で、久里浜の研修に出席し、この病気の治療にあたるようになりました。三段階に分けての治療プログラムなのですが、強制入院させると、体の回復と共に退院を言い始め、家族も期待が多すぎて、全てを病院にまかせようとしてます。病院には完治できる術はない！入院したら完治するというイメージをとるのに苦



労します。

医者として、ミーティングに参加し、経験の分かち合いのすばらしさを知る間に、自助グループのメッセージも積極的に受け入れてきました。退院して少しずつですが、回復していく人が増えるそのなかで、医者として治す無力さを知り、無力からの出発が回復者増加につながりました。院長としての協力の範囲で勉強中です。

日高氏（CP）

精神衛生センターとAAの関わりは、惨めな姿をした1人のアル中中毒者の訪問を受けたことが始まりでした。センターを頼って入院させてくださいと言われ喜んでみたものの、本人との対応に失敗し、考えさせられました。

まず驚くことには、本人がアル中と認めたがらないのです。このケースが非常に多いのです。本人、家族との接し方が少しずつ分かりはじめてきた頃でした。本人にその気があるか？ 勇気があるのか？ 継続するか？ 全て本人の中にあるのに解ってもらえない難しい病気です。

そこで行政として、グループの育成を考えてみたが、これではグループの主体性がなくなるのではと考え続け、結局、この問題も本人たちの問題だとつき放しながら、AAと行政は対等でなくてはならないと、ギブアンドテークの姿勢をつら抜き通すつもりです。又、本人の案内役として利用し、利用されていきたいものです。

<Q & A ディスカッションミーティング>

司会者：ケースワーカー、医療関係、家族の方々から自由にディスカッションしていただき、Q & A方式で進めたいと思います。

Q：（病院関係者）AA、断酒会の自助グループの人々を見て来たが、回復の仕方の違和感を発見しました。そこで本人を紹介するにあたり、選択するにはどうしたらよいですか？ 個人差があると思います。

A：（西脇Dr）本人にとって、退院後癒やしの場所が絶対必要です。それも数多くし、AA、断酒会と自助グループの紹介の場が多い方が良いのと同時に、ここでも医療、行政、自助グループの連携が好ましいと思います。

A:(日高Dr) 断酒会は、個人と個人の付き合いがあり、義理人情を感じ、AAはグループと個人の結び付きを感じます。生きる事を中心にし、生きる事に対して酒は不要だと考えているようです。断酒会はすぐに自立を進めるが、AAはまず、生きる事で、仕事は次と考えているようなニュアンスの違いがおもしろい。

A:(西脇Dr) 本人が浪花節的な人、合理的な人、又は家族が本人にべったりとさまぎまで難しいが、あまり選択せず、地域性と本人に合やすのがよいかと思えます。又、家族も病気になっているケースが多いので、グループ治療を同時に始めるのが理想です。

Q:行政側の福祉で、地域によっての違いに当惑しているがなぜ差がありすぎるのですか。

A:(池田行政)行政側から見たアルコール中毒者は、一般的に扱いにくく難しい。やりがいの無い病気(病気が知らない人が多い)なので、担当者の熱意の問題も確かにあるでしょうし、生活権を握っているという点にもあると思えます。マスコミの取り上げ方で動く場合もありますが、アルコール中毒の実体の把握するのが、隠している場合が多く難しいです。これは私の個人の意見として聞いて頂きたいです。

Q:(関係者) AAのアノニマスについて聞かせて下さい。

A:(AAメンバー) さんがアル中になったのではなく、生まれつきアレルギー体質であった人にとさんと名前が付けられたのです。本人だけでなく周囲の人々(家族等)にも配慮しているつもりです。アメリカから渡ってきたプログラムなので個人の自主性を重んじ、ニックネームという形で通している人もいます。献金にしても寄付という形と、氏名、金額等が必要になってくるので、無名で金額も自主性で、生かされた感謝の気持で献金をしています。アノニマスについて、もっと大きな深い意味が隠されているようですが、自分で理解している部分だけ話しました。

A:(池田行政)小さな町でのアノニマスは必要で、メンバーの住所も知らない方がよい。(TELだけ)

Q:(行政福祉)依存症の人を自助グループに紹介したが、最初は良かったのですが、マンネリの中で、つながらない人にどのようにアドバイスが必要ですか？

A:(AAメンバー) AAの本質はスポンサーシップなのです。引き止めたり、提案はします。命令はできないのですが、「グループから離れると飲んでしまいますよ」と言います。電話はしても、よほどの事がない限り家庭訪問はしません。

A:(AAメンバー) 自覚があり、助かりたい、生きたい、という自発性があれば生死に関わる事なので、マンネリはしません。自分自身の問題です。

A:(西脇Dr) 敗れてスリップしても、スリップには意味があり、自助グループを知ったということだけでも良いと思えますし、時には付き離す必要もあります。ゼロの出発ではなくて前の体験が生きていて、

「助かって良かった！」と覚ることが大事だと思います。

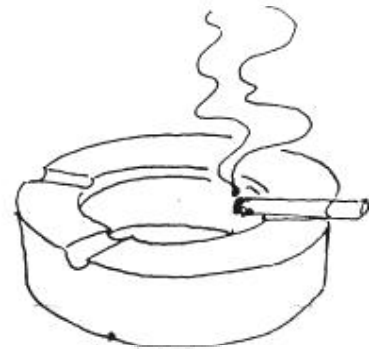
Q:訪問看護についての成果は？

A:(西脇Dr) 外来治療も今後続けていきたいし、地域の自助グループの発展段階をみながら、ゆだねていきたいと思っています。

A:(池田行政) AAの文化を通して、行政側から見守りたいです。

A:(石神Dr) 医療関係者も行政に働きかけたいと思います。今までその部分が弱かったと感じます。一緒にやりましょうという働きかけだと思えます。

司会者: AAと医療行政の関係は、関東のメンバーから見るとうらやましいと思います。今後も三位一体で努力していきましょう。



お待たせしました！

AAのポスター『不安はありませんか』は、各所で圧倒的好評で迎えられ、第一次印刷分はあっという間に売り切れてしまい、このほど第二刷を製作いたしました。これまではAA関東サービス常任委員会、広報委員会が、製作、版元、発送等を担当しておりましたが、今後はJ S O出版物として1部200円にて販売いたすことになりましたので、よろしく願い申し上げます。

なお、送料は実費でお願いします。 J S O

👉 ぐる ~ ぷ便 📧

[パート .]

小田原グループ

小田原グループは今年の9月から、湘南グループの相模川から西のミーティング場が分離して発足した新しいグループです。

レギュラーメンバーは7人。東海道線沿線の小田原、二宮、平塚の教会をお借りして、週4回のミーティングを開いています。小田原グループができたきっかけは、一昨年(61年)の11月に当時小田原のS病院に入院していたメンバーが、病院でAAメッセージを受けてショックを受けたことでした。

以前別の病院に入院していた時の入院仲間が、AAの方法によって酒を止めていたのです。どうしても止められないと絶望していたそのメンバーは、それならば自分もやってみようと入院中からAAに通い始めました。当時湘南グループのミーティング場が大磯にありました。

62年2月に退院したそのメンバーは、自分の地元の小田原に、3月からミーティング場を開きました。湘南グループの仲間が、教会を会場として使わせていただく手はずを整えてくれました。6月には二宮の教会にもお願いしてミーティング場を開きました。シスターがとても良い方で、毎週のようにオープンミーティングに参加して下さいます。おかげでミーティングの雰囲気はとても暖かなものになっています。

初めのうちは地元のメンバーは少なく、S病院の入院患者や湘南グループからの応援のメンバーで、細ぼそとミーティングを開いていたのですが、入院中つなごうた人の中から退院後も続けてミーティングに出てくる人も現れ、一年半たった今、ようやくグループらしくなってきました。

自立したグループになって活動を始めたばかりで何もかも手さぐりの状態で不安になることもありますが、それこそ「今日一日」の気持ちで頑張っていきたいと思っています。

[パート、.]

京阪グループ

京阪グループの近況を少しお知らせします。京阪グループは、京阪電鉄沿いに3年半前頃より発展しました。まだ若いグループです。一番最初に今市ミーティング場ができました。当時、一人二人のミーティングが約1年ぐらい続きました。それから近くの門真にミーティング場ができ、仲間が少しずつ増え始めました。昨年の年末に枚方にミーティング場が持てる様になりましたが、まだ司会をできる仲間が少なく、また、仕事の都合上時間どうりに行ける仲間が少なく困っています。でも地元の仲間が後を引き継ぐまで頑張りたいと思っています。大阪市内にある桜の宮ミーティング場は、1から4までのステップをやっています。

関西では以前はあまりグループ意識はなく、全体で1つのグループとして行動してきたように思います。昨年あたりからミーティング場が増え、グループ化の

話が浮上してきました。そんな中、京阪グループが自然発生的にできたのが今年の初めです。気のあった仲間が5名ぐらい集って全員の仲間の了承を得て、正式にグループの名乗りをあげました。グループでできるサービスは何かと、仲間全員で考えています。月1回ビジネス・ミーティングを持って話し合っています。地元に着したメッセージとして、今年に入って2月、5月、7月と3回守口市市民会館でオープン・スピーカーズ・ミーティングを開催しました。次回は11月5日です。

これからのグループですので何かと御面倒をお掛けしますが、宜しくお願いします。

グループからの質問に 答えて

[関東地区委員会の献金から

3割を地域活動献金に]

「広報の『広』とはAAメンバー以外を指すものだが、このフェロウシップにいるメンバーに知らせることも責任の一部である」とガイドラインに書かれてあることに感謝し、全国レベルの紙面をお借りして、説明させていただきたいと思います。

さて、その要旨についてですが、各地区委員会より、協力はしたいが説明内容がよく分からないとのことでした。

まず、「常任委員会(財務)の提案について」ですが、「各地区に集った献金のなかから3割を常任委員会(地域)のサービス活動予算に」とは一体どういった割り振りをすればよいのか、ということが疑問の中心のようです。たとえば、

④地区委員会活動経費を引いて残った献金の中から3割なのか？

⑤グループから献金された地区委員会総献金から3割なのか？

この疑問については、⑤の方法を提案しています。その考えについて、ちょっと脱線しますが、最近よく商品の値札にメーカー希望価格という言葉で書かれていることが多いようですが、それはあくまでメーカー側の希望価格であって、今は定価という言葉は一般的でなくなっていることはご存知のことと思います。

その内容をそのまま引用して考えていただきたいのです。つまり、提案⑤はあくまで常任委員会の希望する案なのです。ですからその地区の良識で判断した方法で構わないわけです。

委員会としては、あくまで総額のなかからの3割を献金していただくようお願いしています。

ではいったい何に使うのか、については紙面が足りず説明できませんが、先に配布した文書等を参考にさせていただきたいと考えております。

関東常任委員会(財務)提案より